京都「被爆二世・三世の会」会報

京都市中京区壬生仙念町３０-２
ラボール京都５階
京都原水爆被災者懇談会気付
ＴＥＬ075-811-3203
ＦＡＸ075-811-3213
ＨＰ http://aogiri2-3.jp

Kyoto Association of 2nd & 3rd Generation *Hibakusha*（Atomic Bomb Survivors）

９月３日（日）南方特別留学生サイド・オマールさんの７８回忌に参列　左京区・圓光寺

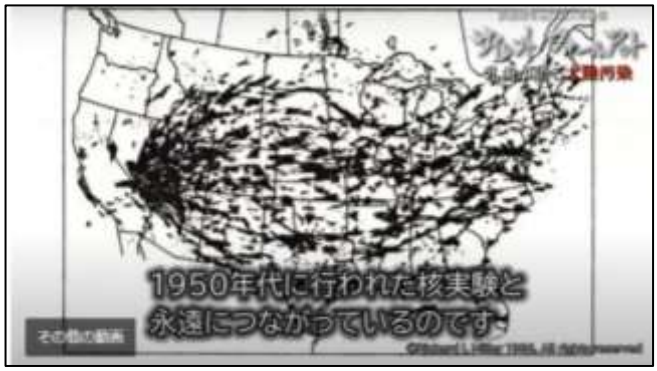
映画　放射線を浴びたＸ年後Ⅲ　Silent　Fallout　上映会に７０人　2
伊東英朗監督からのメッセージ　紹介　4
核兵器廃絶に向けて　スリランカが核兵器禁止条約を批准　６９ヶ国目　6
藤井正則さん（８１歳）に被爆者健康手帳の交付　7
会員から会員へ@みなさんからのお便り紹介　7
本・ＤＶＤ・映画・番組の紹介と交流　9
「原爆初動調査　隠された真実」
「海の中から地球が見える　気候危機と平和の危機」
SCRAPBOOK　「検閲　本紙記事の７６％ ＧＨＱブレスコード」（中國）　１０
「仏　４９ユーロの鉄道乗り放題チケット導入へ」（ＡＦＰ）
編集後記　１１
２０２３年１０月の行事カレンダー　１２

放射線を浴びたＸ年後Ⅲ　Silent Fallout
上映会に70人 8月23日

８月２３日（水）、伊東英朗監督のドキュメンタリー映画『放射線を浴びたＸ年後Ⅲ／Silent　Fallout』の上映会を行いました（龍谷大学響都ホール）。７０人の来場をいただきました。以下に寄せられた感想文を紹介します。尚、当日カンパは４８人の方から７１，０００円が寄せられました。

- 今まで知らなかったことが多くありましたが、知る機会となり、今日参加できたことを忘れません。
- 知る機会を与えていただいて感謝しています。日本でも世界各国でも権力者によって隠されていることがまだまだあるのでしょう。明日流失する汚染水の問題とも重なります。
- 当事者の声をしっかりと聞くべき。血をはくような言葉を謙虚に聞くべきです。と思いました。日本政府は核兵器禁止条約に参加して欲しい。今日は機会をいただきありがとうございました。
- 明日から原発の汚染水が流されるという前日、このような映画を見れて驚きとともに怒りが増す時間でした。アメリカでこのような調査が行われ、大統領も動かした。母親たちの運動に感動しました。私たちも将来の地球を守るために運動を強めていくことが大切だと思いました。ありがとうございました。
- 核実験を実施せざるを得なかった背景は冷戦だったように思います。共産党体制でもこのような被

害があるのでしょうか？広島・長崎での被害状況がまったく生かされていなかった、というより狭められていた結果は、人類全体が考えなければならない大問題ではないでしょうか?



- 私は「長崎の胎児被曝者」で、７０歳を過ぎて「語り部」の活動をしております。あの悲惨な光景を目にしたり、怪我をしておりませんので、実情の体験談は話せません。しかしながら、実際に被害を受けた方々の話を聞いたり、本を読んだり、資料（写真）を見たりして、被爆後、特に胎児→２世・３世→以降、いつ発症するか分からない病気に恐れながら生きている者として、若い人に話しています。

　正に今日のフィルムはそのこと（恐怖）を物語っています。それに加えて政府や軍の「隠ぺい性質」がさらに多くの犠牲者を生み出しています。放射能は核爆弾が爆発した時だけでなく、長い時間、いや永久に人々を苦しめるものです。「核兵器さえなくせば世界の何十%の人が幸せになるでしょう？為政者はこのことをよく考えて欲しいです。この映画は大勢の人々に見てもらうべきです。

- 真実の記録が大学の資料室や国家機関等に詳細に残してあるのがすばらしいと思いました。研究者の意見等も取り入れる民主主義があるのと、個人の発言もメディアがちゃんと取り上げているのが良かったです。

　若い人々が意見の言える国家になって欲しい。私の若い頃にアメリカの粉ミルクは毒が入っていると聞いたことがある。放射能汚染のことだったのが映画で解った。私は子ども３人とも、母乳で育てたのであまり気にかけなかったですが、今考えると知らないことは恐ろしいと思いました。アメリカやイギリスにも私たちと同じように放射能汚染で苦しんでいる人たちがいることが解った。とても良かったです。

- ネバダ核実験で放出された放射性物質による汚染が米国全土にかつ長期間に渡って広がっていることが調査と証言でわかりやすく示されていた。被害者が当時の住民だけでなく子孫にまで及んでいるのもよく描かれていた。物見遊山で見物した市民や実験に駆り出された兵士が放射能被害に関する正確な情報が与えられないまま被ばくしたことは、政府の隠蔽とともに携わった科学者の怠慢

が原因である。

- 衝撃的でした。今もなお、そして地球規模で放射性物質の汚染があるという事実、見えない汚染、知らされない被害、こんな事は許されないと思います。このドキュメントは、多くの人に見て知って欲しいと思います。
- とても良かったです。概ね知っていた内容ですが、アメリカ市民がネバタの核実験だけでなく、太平洋における核実験の影響を強く受けていることももっと強調しなくてはと思いました。 同時に今回は、アメリカのダウンウィンダーズの方が、おもにガンを被害の指標にされていることを強く感じました。実際には「原爆ぶらぶら病」＝能力減退症もたくさん起こっているに違いありません。あるいは胃腸が弱くなるとか、さまざまな健康被害とか、それら様々な被害が起こっているはずです。 この点で日本の被爆者に起こったこと、福島原発事故の新ヒバクシャに起こっていることを英語化して伝え、被害実態がもっと大きく広いことをダウンウィンダーズの方たちに知って頂ければ、自ずとより深い被曝実態が明らかになると思います。そのための英語発信を今後強めようとの決意を新たにしました。 アメリカのヒバクシャ、世界のヒバクシャと連帯して、被曝実態を暴き、核なき未来へと向かう道を切り拓いていきたいです。上映、ありがとうございました。

伊藤英朗監督からのメッセージ　紹介

ご支援いただいた皆さま
応援してくださっている皆さま
映画をご覧いただいた皆さま

監督の伊東英朗です。
３月末、映画 「サイレント フォールアウト」日本語版が完成、日本記者クラブなどで試写会を行いました。
そして、５月末にニューヨークでナレーション収録を行い、６月２日に英語版の「Silent Fallout」 をシカゴで完成させ、ミズーリ州セントルイスや、ユタ州ソルトレイクシティ、セントジョージなど各地で試写会を行うことができました。
これもすべて皆さまの応援のおかげです。
心から感謝申し上げます。ありがとうございます！

さて、クラウドファンディングの際にお約束していた、収支のご報告です。
先日事務局で集約した結果、
収入　28,134,005 円（クラウドファンディング、寄付、文化庁助成 合計）
支出　35,080,345 円（2023 年 8/10 分まで）
結果、6,946,340 円の赤字となっています。

これには映画製作費に加え、今年６月のアメリカでの試写会にかかった費用までが含まれていますが、赤字になった要因として以下の点がありました。
・コロナ禍による物価高騰
・為替相場における円安（予算作成時 1 ドル約 103 円→現在約 145 円）
アメリカでのおよそ 40 日の取材、そして上映活動などに想定を遥かに超える費用がかかりました。

今後の見通しですが、まず何より赤字の解消を目指さなければなりません。
（このままだと伊東事務所そのものの存続が危ぶまれることになってしまいます。）
そして赤字を理由にアメリカでの上映活動をストップさせることはできません。

最大限に知恵をふり絞り、できる限りの努力をして目的達成を目指します。
この映画の目的は、あくまでも「アメリカ全土の放射能汚染をアメリカの人たちに知らせ、『ア メリカを守ることを名目に開発された自国の核兵器によって、アメリカ国民が被曝している』ことについて、アメリカ政府が知らせていない問題を、議会でさらに議論してもらう」という ことです。
アメリカで議論されれば、日本の放射能問題にも確実に大きな影響を与えるはずです。
そこまで辿り着いて、この映画が役割を終えるまで、上映活動はやめられません。
日本には今でも 「唯一の被爆国」「唯一の戦争被爆国日本」 という言説があります。しかし、 アメリカは、自らの政府によって１０１個の核爆弾を落とされた国です。実戦での核兵器投下も、 実験による核兵器投下も、核爆発による放射能汚染という点は、まったく同じです。

またそれは 「戦争」 以外の何ものでもありません。
もちろんアメリカだけではないのです。ロシアも、イギリスも、フランスも、中国も・・・。
さて、国内での上映 （日本語版）についてお伝えします。
「Silent Fallout」は、アメリカでの取材活動に特化し製作したため、当初日本での上映は考えていなかったのですが、完成から半年が過ぎ、少しずつ日本語版の上映のご要望を頂いています。

1 作目、2 作目に比べ、その上映数は 10 分の１にも満たない状態ですが、それでもご要望頂いていることに感謝しています。
メディアでの取材もほとんどなく、この日本においては「放射能の問題は終わっている」ことを痛いほど感じています。
汚染水の海洋投棄も、放射性物質による実害が問題ではなく、風評被害が問題になっていることに歯痒い思いでいます。「少しなら（薄めれば）問題はない」とする世論も心配です。

国内での上映は、事務処理や発送業務を手伝ってくれている数名のスタッフによって支えられています。 アメリカでの活動については、シカゴに住むスタッフが支えてくれています。
ホームページなどをボランティアで管理してくれる方も現れました。
この３作目は、配給をつける費用もないため、劇場公開もありません。
一つ一つ、すべてを手作業で行っていますが、映画の内容と共通して、手を差し伸べてくれる のはなぜか女性たちです。

目的の規模と実際の体制があまりにもアンバランスですが、とにかく、小さくても一歩一歩を 踏み出し続けたい、と思っています。
アメリカでの上映活動については、現在すでに決まっている国際映画祭の正式上映を通して話題を広げ、国内のメディアへのアプローチも同時に行います。
少しでも費用を抑えて、話題を広げる方法を探っていきたいと思います。
今年１０月から１２月にかけては、複数の国際映画祭への参加を予定しています。
2024 年 1 月以降は、なんとか資金を工面し、アメリカ各地での上映活動を行いたいと考えています。 現在、赤字解消を目指してテレビ番組の制作も並行して行なっているため、体力的にギリギリ の状態が続いています。もっと映画にかける時間がほしいのですが、痛し痒しというところです。
今後、具体的な策を考えながら、体力的にも経済的にも健全な状態を取り戻したいです。
今は、伴走してくださるみなさまの物心両面の支えだけが頼りです。

ここまでの長文をお読みいただき、ありがとうございました。 そして、みなさまからのご支援に、重ねて感謝申し上げます。

核兵器廃絶に向けて

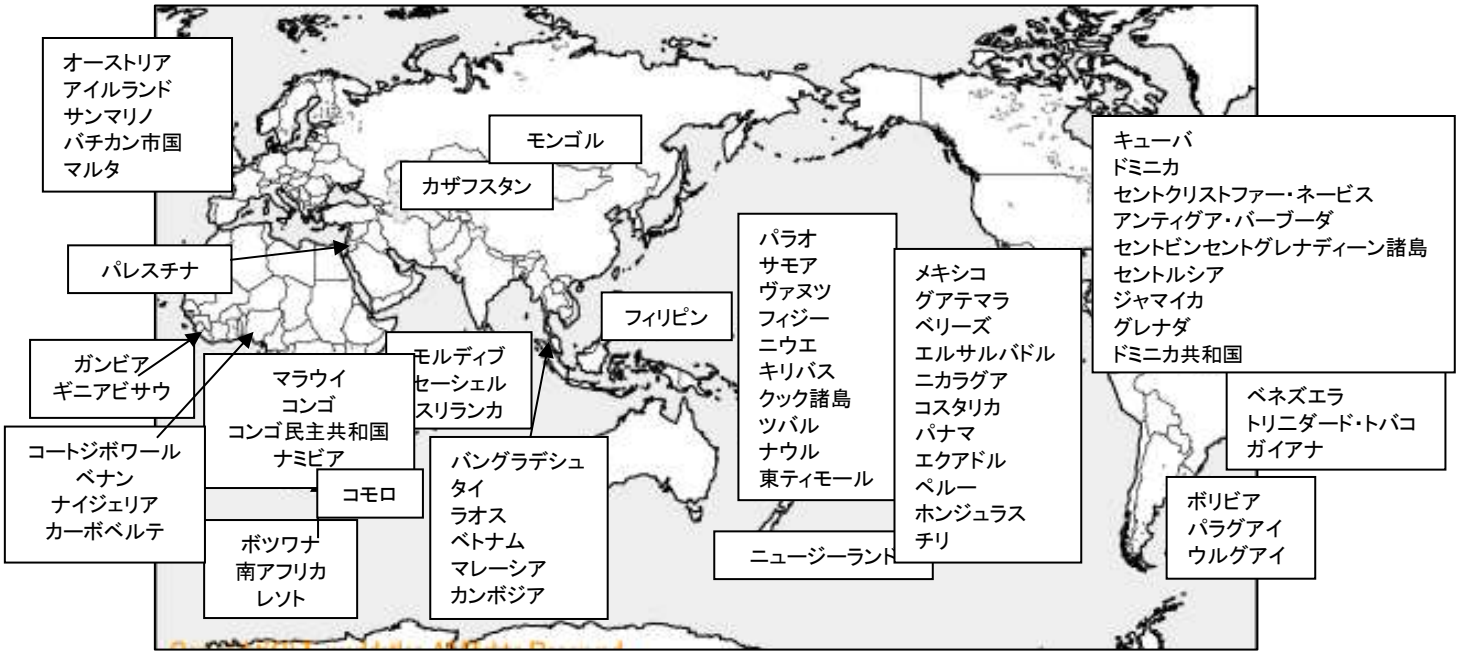
２０２３年８月吉日

核兵器禁止条約へスリランカが加入して 69 ヵ国に バハマが署名して 93 ヵ国に

■２０２３年９月１９日、核兵器禁止条約を新たにスリランカが批准して６９ヵ国になりました。またバハマが署名して９３ヵ国になりました。署名国は国連加盟国（１９３ヶ国）の過半数まであと４ヶ国になりました。

■スリランカのサブリ外相は、「スリランカは核兵器禁止条約の締約国となることで核廃絶に向けた長年の約束を再確認した」と述べています。ＩＣＡＮのメリッサ・パーク事務局長は声明で「最悪の大量破壊兵器に反対するもっとも強力な国際規範を高めた」として２ヶ国の参加を歓迎しました。

2023年9月25日現在　核兵器禁止条約批准国69ヶ国



藤井正則さん（81 歳）に被爆者健康手帳の交付

■８１歳になる藤井正則さん（京都市南区在住）に９月８日、被爆者健康手帳が交付されました。
■藤井さんは３歳の時、広島市楠町（爆心地から１．５㌔）で被爆しました。当時、お母さんはすでに他界されており、お父さんは中国へ出征中でした。２歳年上のお兄さんと一緒に、お父さんのお姉さんにあたる伯母さんが母親代わりとなって３人で暮らしていました。
■８月６日のことは３歳だった藤井さんにはまったく記憶がなく、原爆のこと、被爆のことはすべて後になって聞かされた話ばかりでした。
■若い頃の藤井さんはまったく健康に不安がなく、被爆者健康手帳にも関心がありませんでした。しかし、昨年奥さんを亡くされ、独り身となって健康不安も増すようになり、手帳の取得を希望するようになりました。
■ところが、３歳の時の本人の記憶は何もなく、周囲の人たちもすでにみんな亡くなっていて、藤井さんの被爆を証明するのには困難を極めました。被爆者健康手帳交付の申請には、その人の被爆の事実を二人の人から証明されるか、またはそれに代わる何らかの証明が求められます。
■辛うじて、すでに他界されている伯母さんが「手帳を取得されていたのではないか」と推測され、伯母さんの消息の足跡を辿り、伯母さんの手帳申請時の被爆状況記述に手がかりを求めて、藤井さんの被爆状況確認に到達することができました。その過程では、京都府の担当者の方、広島県の担当者の方にも大変お世話になり、ご尽力いただきました。
■手帳を手にした藤井さんの喜びはひとしおでした。

会員から会員へ　✿　みなさんからのお便り紹介

他地域の２世・３世の方からいただいたお便りも紹介いたします。

■私もリハビリがんばって自分の足で歩いて署名行動に！

村上ひろみ（北区）

いつも会報を送っていただきありがとうございます。私事ですが、病気で倒れてしまい、その後リハビリ病院に入っています。「何もできないなー」と思っていましたが会報№.１３０号の“「ようすけ君の夢」再販ご協力のお願い”を読ませてもらって、これなら少しご協力できるかも・・・と思いました。ネットに不慣れな人のことも考えてもらい、郵便振替口座でも振り込めるようにして下さったので、ぜひこの絵本が多くの人たちの目に触れ、心に響いて平和の思いを共有していけたらいいなと思いました。

入院している病院の看護師さんの中に原水禁世界大会のバッチをつけて下さっている人がおられました。とっても嬉しいです！！　私もリハビリがんばって自分の足で少しでも歩けて、平和の署名行動に参加したいです。

■どうする日本！

久米弘子（市民共同法律事務所）

８月２３日～２４日届いた会報を読んでいます。原水禁２０２３年世界大会参加者の暑い夏の熱い思いに圧倒されている傍らで、８月２４日原発の「汚染水」の海洋投棄が強行され始めました。今の首相は「私が責任を持つ」というが「何十年先まで首相のままでいるつもりか」といいたくなる。さっそく日本産の輸入禁止が各国で始まり、漁業関係者の悲鳴も聞こえてくる。早くから予想されたことなのに。「どうする日本！」

■サイド・オマールさん７８回忌

平　信行（南区）

９月３日は南方特別留学生サイド・オマールさんの命日、今年７８回忌を迎えました。毎年墓前法要と交流会は行われてきましたが、今年は日曜日と重なったことなどもあり、より幅広いみなさんにも案内してのとりくみとなりました。約１００人もの参列者でした。

本堂で大坪住職による読経、参列者による焼香。その後墓前に移動して、参列者全員からの献花。さらにその後広間に会場を移して参加者交流会。今回は、増田正昭さんによるオマールさんの肖像画披露と贈呈、歯科医師である古田博一さん制作の映画『ヒロシマが泣いている・フクシマが泣いている』の上映会も合わせて行われました。参加者ひとり一人が自己紹介しつつ交流にも花が咲きました。毎年の例ですが今年もオマールさんが在籍していた現在の広島大学を代表して３名の職員の方が出席されました。京都「被爆二世・三世の会」から１０名の会員が参加しました。

圓光寺の大坪住職のお話から・・・「普通一般に７８回忌も法要を営むところはない、できない。しかしオマールさんの法要は７８回目も迎えることができた。オマールさんのことを語り伝えよう、今に生かし続けようとする多くのみなさんのお力だ。来年以降も引き続きとりくみができるようにしていきたい。」尚、増田さんの描かれた肖像画は今後圓光寺内で保管され、必要に応じて展示、披露されていくことになりました。

■敬老の日に

井坂博文（北区）

９月２３日、敬老の日。４月以降地域活動に関わり始め、ラジオ体操に７月から参加することにしたら、すこやか老人クラブに誘われて加入しました。

ラジオ体操も開始時間に船岡山に登ると、日差しも穏やかになり秋の気配。騒々しいセミの声も虫の音に変わっています。２３日に、私の友人がラジオ体操の全国組織から表彰されました。老人クラブから敬老の日のプレゼントにお赤飯をいただきました。有名な〇〇餅の栗おこわに舌鼓。美味しゅうございました。

本・DVD・映画・番組・その他の紹介と交流

■原爆初動調査　隠された真実　　ＮＨＫスペシャル取材班　著

紹介　石角敏明（長岡京市）

ハヤカワ新書
１０７８円(税込み)

本の内容を紹介する前に、「守田さん」の奮闘に敬意を表したいと思います。「明日にむけて、N0２３５８～２３６１」で、文字起こしをされ、放送内容を紹介されています。大変なご苦労をされたと思います。「本」を購入はしない、という方、ぜひ「守田さん」の「明日にむけて」を読んで頂きたい。

この「本」は、放送された内容を組み直し、書籍にしたものです。そのため放送されなかった内容も文字化されています。

広島・長崎に原爆が投下された後、米軍が調査団を派遣したが、その任務は「残留放射線の影響を調査することではなく、放射能がないということを証明すること」。そして、ソ連も調査団を派遣しながら「残留放射線の影響」については、米国と同調していたという。「隠された」のではなく、科学は政治に蹂躙され「隠蔽させられた」のである。日本人調査団の奮闘も触れられてはいるが、「隠された」真実は、今もアメリカの核政策に大きな影響を与えているという。ここでは、「ナガサキ」特に「西山地区」の被ばく問題が詳しく取り上げられているが、米軍の対応には怒りを覚える。

私のつたない「文書」より、実際に「読んで」頂きたいと思います。「いかに真実」が隠蔽され、被爆者に二重の被害を及ぼし、７５年後の今でも世界の核戦略に大きな影響を及ぼしているかが分かります。「そんなバカな」と思われることが、今でも事実として扱われることの怖さを知ることができる。

いかに「恐ろしい」ことがされたのかは、「守田さん」が早くから気がつかれ「文字化」されたことでわかると思いますが、現在も続く「被ばく」をいかに軽く見せるかの出発点ともいうべき、「被爆の実態」が如何に隠蔽されたのかを、多くの人に知って頂きたいと思います。

個人的な話で申し訳ないですが、「共犯者」となった科学者に登場する「ジェームズ・ノーラン教授」の著書を「会報１１８号」で紹介しました。アメリカ国内で「いかに隠蔽工作」が行われたのか詳しく触れられていますし、ビキニ環礁の被ばく問題、「医師ノーラン」の葛藤が描かれています。まさかここでつながるとは……)

■海の中から地球が見える　～気候危機と平和の危機～　　武本匡弘　著

紹介　平　信行（南区）

プロダイバーであり環境活動家でもある著者が４０年間の体験と記録に基づいて地球環境の危機を告発。大きな活字、カラー写真満載、とても分かり易い一冊です。

著者の体験に基づく著述ですから一つひとつのレポートがすべて具体的で、それだけ迫力もあります。

世界のサンゴが白骨化しつつある。「磯焼け」によってワカメも、コンブも、ヒジキもなくなっていく。巨大積乱雲によって海の竜巻の発生。海の風が変わった。海面上昇によって今やマーシャル諸島の人々の最大課題は移住・移民政策。海洋プラスチックでとどめ・・・・、と。

著者は戦争と環境破壊の関係についても具体的事実に基づきながら深い洞察を行っています。戦争の準備から大戦中まで太平洋は常に戦場だった。ひたすら破壊しまくる戦争。核兵器による永久的ともいえる環境破壊。太平洋のど真ん中に核のゴミ捨て場。枯葉剤・ダイオキシンの恐怖。海砂の採取で地球が壊れる。辺野古の海の危機・・・・。

そして、危機の告発、問題の提起だけに終わるのではなく、社会を変えていこう、「気候危機」も「平和の危機」も希望の種で解決できる、海が助けてくる・・・・と結ばれ、危機打開への展望と方向も指示されています。

あけび書房
１９８０円(税込み)

平年気温を１．７６度も上回った２０２３年の夏。「気候変動」とか」「地球温暖化」などという言葉ではもはや受け止められない、文字通りの「気候危機」、「地球沸騰化」を実感することになりました。平和の危機と合わせて気候の危機を一体となってとりくんでいくことの重要性、緊急性を訴えられる一冊です。

Scrap book

■検閲　本紙記事の７６％　ＧＨＱプレスコード
発令きょう７８年　「違反」９４本　言論統制厳しく

連合国軍総司令部（ＧＨＱ）が日本の占領直後に敷いたプレスコードで、検閲された中国新聞の記事は少なくとも７万４１２６本あり、掲載記事の７６・２％を占めていたことが本紙調査で分かった。うち原爆関連は４５・１％が検閲を受けていた。「違反」とされた記事は全体で９４本あった。プレスコードが発令されて１９日で７８年。地方紙にも及んだ厳しい言論統制の実態が浮かび上がった。

日本での検閲資料が多数保存されている米メリーランド大プランゲ文庫にある中国新聞紙面と、ＧＨＱの関連資料を調査。プランゲ文庫の新聞・雑誌情報などをまとめたＮＰＯ法人インテリジェンス研究所（東京）の「２０世紀メディア情報データベース」とも突き合わせ、検閲状況を分析した。

プランゲ文庫には１９４６年３月２４日～４９年１０月１３日の中国新聞紙面が保存されていた。欠落もあり、４７年は約１カ月分しかなかった。確認できた記事は全９万７２２５本で、４分の３に当たる７万４１２６本が検閲を受けていた。

うち原爆記事は１５０５本で、６７９本が検閲対象だった。対象外３０２本（２０・１％）、紙面が残っていないため不明５２４本（３４・８％）。

プレスコード違反とされたのは記事９４本と広告１本。うち原爆記事は１本で、広島市長が、海外へ復興支援を呼びかける許可をマッカーサー米元帥に要請したいとの短い記事（４６年７月２２日）。「マ司令部」（ＧＨＱ）との記述が原因だった。

原爆関連以外で違反と指摘されたのは、東京裁判や労働組合のストライキ、戦地からの引き揚げ者などに関する記事や社説、コラムなどだった。

ＧＨＱによる検閲は、プレスコード発令から約４年後の４９年１０月３１日に終了した。５２年４月のサンフランシスコ講和条約発効により日本は占領から脱した。

調査結果について、占領期のメディア検閲に詳しい山本武利・早稲田大名誉教授は「プレスコードによる地方紙の検閲の実態を深掘りした意義は大きい。他の地方紙も取り組み、それぞれの検閲の全容解明に迫ってほしい」と話している。

プレスコード

連合国軍総司令部（ＧＨＱ）による言論統制で、１９４５年９月１９日に発令された。基準は「連合国に関し虚偽または破壊的批判をしてはならない」など１０項目。新聞やラジオ報道のほか、雑誌や映画、電話、郵便、紙芝居なども対象になった。違反の有無についてＧＨＱ傘下の民間検閲局（ＣＣＤ）が検閲し、４９年１０月３１日まで続いた。

（２０２３年9月１９日　中國新聞）

■仏、49ユーロの鉄道乗り放題チケット導入へ　独方式を模倣

フランスのクレマン・ボーヌ交通担当相は７日、ドイツの成功例を模倣し、２０２４年夏に月額約４９ユーロ（約７７００円）で全国のローカル線や都市間鉄道が乗り放題となる格安パス「パスレール」を導入する方針を明らかにした。政府は環境問題への配慮から、飛行機の国内線の利用を一部制限し、公共交通機関の利用を奨励している。

ボーヌ氏は国営テレビ・フランス２に対し、「至ってシンプルだ。フランス国民なら、年齢にかかわらず、誰でもこのパスを購入できる。そうすれば、安価な均一料金で都市間鉄道やＴＥＲが乗り放題になる」と説明した。

（２０２３年９月９日　ＡＦＰ）

編集後記

▼９月１日、気象庁が今年６月～８月の平均気温を発表。平年基準値を１．７６度上回り過去最高だったと。１４日には米航空宇宙局（ＮＡＳＡ）が同じ６月～８月の世界の平均気温を発表。こちらも平均気温より１．５度高く過去最高だったと。人間の体温に置き換えてみると１．５度も高いということは即発熱外来行き、治療を必要とする事態ということになります。日本中が世界中の人々が発熱に襲われていたわけです。▼核兵器や原発に比べて気候温暖化・気候危機はまだなんとなく問題の根源、責任の所在を特定しにくい雰囲気があります。そのことを早く払しょくし、問題の焦点を明らかにし、打開に向けた行動をしていく必要があります。ＣＯ２排出削減、当面の最大の課題は火力発電の削減、再生可能エネルギーへの大胆な転換ではないでしょうか。ドイツでは２０４５年までに温室効果ガス排出ゼロに向けた目標を定め、それを支える国家予算も編成しました。フランスでは航空機からのＣＯ２排出を目的に国有鉄道の乗り放題チケットというユニークなとりくみも計画されています。私たちの市民運動も、核による被害根絶と合わせて気候危機対策にもっとシフトした運動が求められていると思います。（平）

２０２３年１０月（神無月・かんなづき）行事カレンダー

月	日	曜	行　　事
１０	１	日	乙訓平和のつどい「SilentFallout」上映会(１４時・大山崎ふるさとセンター)
	２	月	
	３	火	
	４	水	
	５	木	
	６	金	ノーベル平和賞発表 ６・９行動　　キンカン行動
	７	土	
	８	日	
	９	月	スポーツの日　６・９行動
	１０	火	
	１１	水	
	１２	木	
	１３	金	キンカン行動
	１４	土	
	１５	日	
	１６	月	
	１７	火	
	１８	水	
	１９	木	安保法制廃止をめざす１９日行動（１６時３０分・京都市役所前）
	２０	金	京都「被爆二世・三世の会」１０月例会(18 時３０分・ラボール京都) 京都「被爆二世・三世の会」結成記念日(２０１２年) キンカン行動
	２１	土	
	２２	日	時代祭
	２３	月	
	２４	火	国連軍縮週間　→　１０月３０日(月)まで
	２５	水	
	２６	木	
	２７	金	キンカン行動
	２８	土	
	２９	日	
	３０	月	
	３１	火	ハロウィン